

校長 橋本 忠

防災活動に対して静岡県地域防災活動知事褒賞を頂きました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓に、栄川中学校ではより実践的な防災活動に取り組んでいこうと考え、平成23年度から避難所生活体験学習を行ってきました。23年度には夏休みに全校一斉で、24、25年度は、5月に1年生を対象に避難所生活体験学習を行ってきました。保護者の方々や地域の区長会・自主防災会の方々、また市役所危機管理課のご協力もあり、栄川中学校の一つの大きな行事として定着してきました。本年度は体験学習の内容を工夫したり、1年生の総合的な学習の時間で、年間を通して学習するなど少しずつ改良を加え学習を進めてきました。

このような「防災教育の推進と地域と連携した防災活動」に対して、このたび静岡県地域防災知事褒賞を頂くことができました。11月10日、菊川文化会館アエルにおいて表彰式が行われ、学校の代表として、生徒会長の伊藤かれんさん、副会長の小原由珠香さんが参加し、表彰状と楯を頂きました。大変名誉なことで、今後さらに工夫を加え価値のある活動としていきたいと考えています。

フィリピンの台風被害救援金へのご協力、ありがとうございました。

生徒会本部の呼びかけで11月20日～22日の3日間、フィリピンの台風被害救援金の募金活動が行われました。生徒会がチラシを作成して各学級に配布し、昼の放送や学校メールで紹介したところ、63,476円という大きな金額が集まりました。短期間にも関わらずご協力頂きありがとうございました。集まった救援金は静岡新聞社を通して、日本赤十字に贈られ、被災者支援に使われます。

「大きな勇気と小さな勇気」

11月11日(月)朝礼での話

今日は「勇気」ということについて考えてみたいと思います。勇気には「大きな勇気」と「小さな勇気」があるのではないかと思います。

「大きな勇気」と聞いて思い浮かぶことはありますか。みなさんはちょうど1ヶ月くらい前のニュースで「線路にうずくまった老人を自分の身を投げうって助けた女性」がいたのを覚えていますか。この話を聞いたときに、とても勇気のある女性だなと感心してニュースを聞きました。また、以前に読んだことのある曾野綾子さんの「塩狩峠」という小説を、ぱっと思い出しました。塩狩峠の話はこのような話です。

北海道の和寒町(わっさむちょう)というところに、「塩狩峠」という峠があり、列車が走っています。あるとき、この峠を越えようとしていた列車の連結器が外れ、一番後ろの客車が坂を下り始めました。偶然乗り合わせた鉄道員の長野政雄さんという人が、とっさの判断で身を投げ出して坂を下り始めた列車の下敷きになり、列車を止めました。長野さんは列車にひかれて亡くなりましたが、列車は無事止まったそうです。もし、長野さんが止めなかったら、客車はぐんぐんスピードを上げて坂を下り、多くの人が亡くなる大事故になっていたはず。自分の身を投げうって他の多くの人を助けた長野さんの「大きな勇気」に感心しました。この小説を読んだのは、もう30年も前になりますが、その時ずっしりとした重い感動を覚えたのを今でも覚えています。実は、この話に登場する長野さんやこの事故は実際にあった話だそうです。

線路の老人を助けた女性、客車を止めた長野さんのように、いざとなったとき、我が身を振り返らず、人のために命を投げ出すことができる「大きな勇気」が自分にもほしいと感じます。

次に「小さな勇気」です。まず、次の詩を読んでほしいと思います。東井義雄さんの詩です。

…… 東井義雄さんの「小さな勇気をこそ」を引用 ……

どうでしょう。テレビや漫画に負けない勇気、朝寝坊に勝つ勇気、明日やればいじやないかという甘えをやっつける勇気、紙くずなど小さなことはほっておいてもいいやという気持ちに負けない勇気、こういう小さな勇気なら先生でも持つことができそうな気がします。最初に紹介した大きな勇気をふるうことはなかなか難しいなと感じた人も、この詩のような小さな勇気なら発揮できるのではないのでしょうか。

大きな勇気をふるうこともとても大切なことです、でも同じように小さな勇気を持ち続けることも大切なことだと思います。そして小さな勇気の積み上げが大きな勇気につながるのではないかと思います。

ぜひ小さな勇気を発揮しましょう。

東井義雄さんの「小さな勇気こそ」については栄中HPを御覧下さい。